

令和6年度第1回明石市地域自立支援協議会

日時: 令和6年7月22日午後2時から3時30分

場所: 明石市役所議会棟2階大会議室

出席委員: 阪田委員・坂委員・相馬委員・宮本委員・鳥居委員・賀部委員・四方委員・山下委員・山形委員・田中委員・井上委員・瓜生委員・柏木委員・岡田委員

欠席委員: 中嶋委員・三宅委員

事務局: 中原生活支援部長兼生活支援室長兼福祉事務所長・中谷障害福祉課長・藤井支援担当課長・服部医ケア担当課長・藤川計画係長・西出障害福祉係長・山中自立支援係長

関係部署: 山田インクルーシブ推進担当次長兼インクルーシブ推進課長・木股発達支援課長・永松施設人材育成課長・山野相談支援課長・大西学校教育課指導主事

関係機関: 山崎しごと部会長・馬場しごと副部会長・山崎くらし副部会長・木村こども部会長代理

明石市社会福祉協議会(橘田室長・後藤センター長・足立専門員・南部専門員・藤原専門員)・濱口東播磨圏域コーディネーター

—中原部長挨拶—

—新委員紹介—

—資料確認—

(会長)

それでは、議題に入りたいと思います。明石における地域生活支援拠点の運用について事務局から説明をお願いします。

—事務局による資料 2 に基づき説明—

(会長)

ただいま事務局から説明がありましたが、質問はございますか。

(委員)

1 点目が 2 ページ目の「(2)緊急時の受け入れ・対応」についてですが、詳細を教えてください。

(事務局)

虐待案件が 5 件、その他が1件となっています。

(委員)

「(2)緊急時の受け入れ・対応」について、現在は虐待の占める割合が多いですが、障害の重度化や高齢化を考えると、将来的に介護者の急病に伴う自主的な保護の機会が増えてくると思います。今後も地域自立支援協議会で実数の把握を進めていただけると、緊急時の実態が見えてくると思いますのでよろしくお願いします。

「(3)体験の機会・場」について、令和 5 年度実績は体験の機会の提供として 15 件の紹介と記載がありますが、体験のみなのか、体験後にグループホームへ移っていったのかを教えてください。

(事務局)

資料は基幹相談支援センターで関わったものですので、それ以外に相談者に関わっている案件や、市のケースワーカーで関わっている緊急案件等は計上されていません。

グループホーム体験後の 15 件の内容につきましては、その後の状況把握できておりません。改めて内容把握いたします。

(委員)

「(3)体験の機会・場」についてですが、令和 5 年度は 7 事業所で定員 27 名となっています。グループホームの定員は 5～6 名ほどの認識ですが、定員の少ない事業所が多くできたということでしょうか。

また、新規グループホームの入居対象とする障害種別はわかりますか。

(施設人材育成課)

令和 5 年度 7 事業所で実績 27 名の詳細についてですが、多い事業所で 6 人ほど、少ないところであれば 4 名の定員です。増設による定員増のグループホームもございましたので、合わせて 27 名分という実績になっています。

グループホームの対象とする障害種別につきましては把握しておりません。

(会長)

議題 1 は終了とします。

続きまして、議題 2 各専門部会より令和 5 年度の活動報告及び令和 6 年度の活動方針について報告をお願いします。

はじめに暮らし部会より、よろしくお願いいたします。

—暮らし部会より報告、説明—

(委員)

福祉学習推進プロジェクトの知的障害の理解の教材についてですが、どのような対象者に向けた教材でしょうか。

(くらし部会)

一般の方に対して障害者の方を知っていただくためのものです。

(委員)

一般的な知的障害についての啓発という理解でよろしいでしょうか。

(くらし部会)

一般の方向けの教材です。少しでも障害者への理解をいただける機会があればと思って作成しています。

福祉学習推進プロジェクトは、初期段階の障害理解へのアプローチという考えで、初めて障害に関わる方に知るきっかけを作りたいという目的で実施してきました。全く障害について知らない方に、障害を知るきっかけを作ることを目的としています。より詳細な障害理解の内容については、次の段階と考えています。

(委員)

インフルエンザ等の感染症が蔓延した際の対策を教えてください。

(くらし部会)

感染症が発生した場合は、他の方に感染拡大しないように医師の判断を仰ぐ、自宅で待機要請する等、状況に応じた対処をしています。

また、各施設で業務継続計画を作成していますので、業務継続計画をもとに各施設で工夫をしながら感染対策をしています。居住者の障害種別、施設の規模、職員数等によって対応は違いますが、感染を広げない取組を各施設で取り組んでいます。

(委員)

多くの地域で小規模のグループホームができていますが、地域の方に一層理解を深めていただき、コミュニケーションや地域連携をとっていただければと思います。

(くらし部会)

昨今、小規模のグループホームが増えていますが、形態は様々で、精神の方を対象にしたグループホーム、専門性に特化した小規模グループホーム、強度行動障害の方のグループホームも見受けられます。

くらし部会では、新しいグループホームも一緒にサービスの質を上げて、障害が重度の方も地域で暮らしていける取組をしていきたいと部会内で意見交換をしています。グループホームを開設するときにその地域の方々と一緒に活動ができる機会や、障害を理解していただくような機会を設けていきながら、地域で皆様とともに暮らせるような形を形成できればと思っています。

(会長)

ありがとうございました。続きましてしごと部会の報告をお願いいたします。

—しごと部会より報告、説明—

(委員)

チャレンジウィークに参加できていない事業所は忙しいこと等が理由なのでしょうか。

(しごと部会)

多数の方に参加してもらう段階にはまだ至っておりません。しかし、忙しくても参加したい内容に、将来の事業所運営の1つの取組として、時間を割いていただけるような内容に精査していきたいと思っています。

(委員)

チャレンジウィークについてですが、事業を発展させていくのは大変だったと感じます。

本人や家族の方も、参加する一歩を踏み出せない方がいらっしやると思います。何が一番躊躇する理由になっているか、もしわかれれば教えていただきたいです。

(しごと部会)

就労継続支援B型に通所されている方の中には、就職後、もうまくいかなかった場合戻る場所はあるのか、一般就労をしたら戻る場所がないのではないかと、不安を持たれている方が多くいます。ご家族の方も同様に、企業に就職と聞くと身構えてしまうところがあるようで、社会で長く働くことができるように支援しています。

(会長)

続きましてこども部会をお願いいたします。

—こども部会より報告、説明—

(委員)

経済的に長時間預かってほしい、子どもとの時間を大切にしたい等家庭によって考えがあると思います。多くの選択肢があったらいいなと思いました。

(こども部会)

学校が終わって帰ってくる時間は、事業所にもよりますが、通常時ならば6時から7時、長期の休みになりますと4時から5時が多くなり、いつもよりも早く帰ってきます。それに合わせ、保護者が普段の働く時間を変更せざるをえないという課題があります。ご家族が時間を気にせず働けるようにすることは喫緊の課題と感じています。

(会長)

R6年度のくらし部会の活動報告をお願いいたします。

—くらし部会より報告、説明—

令和 5 年度、集まることができなかったヘルパーの集いは、令和 6 年度一旦休止します。くらし部会の中では引き続き協議検討していきます。

—しごと部会より報告、説明—

しごと部会では、本当は仕事をしたいがでずくに困っている方や学生等にどうすれば情報が届くか、仕事につなげられるかを考え活動をしており、今後はもっと入口を広げて多くの人に参加いただければと思います。学校関係者に出向いて説明をする、動画での発信をする等知っていただくための啓発方法を考えていきます。

—こども部会より報告、説明—

児童通所サービス等のガイドの更新を行っていきます。

(委員)

教育機関として支援する学校を区別せず一緒に教育することが正しい考え方です。

支援学校に通うことを希望する子どもが増え、支援学校の定員が溢れており、県は新規の学校の設立や既存学校の増築で約 400 人の定員増加を計算しています。

しかし、支援教育を選ぶ人が、支援学校に行くならばいいですが、私は地元で子供たちを育てていけるように、地元の学校に通わせてあげられるように整備してほしいと思っています。障害のある人も地元の友達と一緒に過ごせるようにしてほしいです。1 回特別支援学校に行って離れてしまうと、忘れられてしまい、子どもにとって損失になってしまいます。最低限、同じように一緒になって暮らせる社会を皆様で考えてほしいと思います。

(委員)

避難行動要支援者台帳業務のために障害のある子どものご自宅を訪問しましたら、作業所での作業内容等を楽しそうに話してくれます。私の地域では、学校や作業所に明るく通われている子どもをよく見かけます。また、地域の施設からイベントに声をかけてもらいお手伝いさせてもらっています。この場をお借りし皆様には、明るい地域づくりに尽力いただき感謝申し上げます。

仕事に行くことができていないが現在は親がいてお金もあり生活ができる人が、親が亡くなっても就職せず、更に地域とのかかわりも持たなくなったら、本人が助けを求めない限り、支援センターや施設が助けることはなかなか難しいと思います。地域でそのような方を大きな気持ちで受けとめることができる社会の形成ができればと思います。

(委員)

ヘルパーの人材不足が非常に顕著で、ヘルパーが疲弊されている現状があります。また、ケアマネジャーを探すことが非常に大変で、人材育成について地域自立支援協議会の中で意見を出し合っていければと思います。

(会長)

ありがとうございました。

議事はこれにて終了とさせていただきます。

—事務連絡—